

## 平成 30 年度研究開発評価人材育成研修（初級）実施要項（案）

### 1. 趣旨・目的

研究開発評価に当たっては、評価に関する制度の理解や知識が必要であるが、大学や研究開発機関等では、評価を担当する事務職員がジョブローテーションで数年ごとに異動し、評価の経験・知識が蓄積されにくいなど、人材の集積や人材育成が進んでいない。このような背景の下、文部科学省では、研究開発評価の効率化及び質の向上に資するとともに、各機関における研究の推進や評価に関わる事務職員の質の向上を図る観点から、研究開発評価に関する基礎的な知識等の習得による、研究開発評価人材の育成を目的として、研究開発評価人材育成研修（初級）を実施する。

### 2. 対象者及び日程等

対象：大学、大学共同利用機関法人及び独立行政法人の研究開発評価に係る部署に所属し、研究開発評価の業務に 1 年から 3 年程度従事している事務職員（※）。

なお、平成 29 年度までの受講者は対象から除く。

（※）研究開発評価の業務とは、各機関における組織的な研究戦略の策定、戦略に基づいて実施される研究活動及び研究評価活動等に関連する業務を広く意味する。

（※）本研修は、研究開発評価の業務に関する、基礎的・体系的な知識等の習得や、実際の事例に係る情報共有をねらいとしたものであり、特定の評価手法等について専門的な研修を行うものではない。

（※）原則、係員～課長補佐クラスを対象としている。

定員：40 名程度（6～7 名×6 班を想定）

日程：平成 30 年 11 月 27 日（火）、28 日（水）

場所：文部科学省 15 F 特別会議室

平成30年度研究開発評価人材育成研修（初級）【日程表】（案①）

時間	1日目（11月27日）	時間	2日目（11月28日）
会場	文部科学省	会場	文部科学省
13:00～ 13:05 (5分)	開会の挨拶  文部科学省科学技術・学術戦略官 工藤 雄之	10:00～ 10:30 (30分)	「最近の政策動向」 文部科学省科学技術・学術戦略官 工藤雄之 or 科学技術・学術政策局企画評価課課長補佐 國分 玲子（P）
13:05～ 15:05 (120分)	【講義】 基礎編（研究開発評価の意義、体系、制度、評価の実施時期、評価方法、評価の活用のあり方、人材育成等）  講師：伊地知先生（P）	10:30～ 14:30 (180分) ※途中、休憩(60分)を含む	【ワークショップ】 モデレーター：栗本先生（P）  ファシリテーター：各委員（P）
休憩(10分)			
15:15～ 16:00 (45分)	【アイスブレイク】 講師：小湊先生・鳶田先生（P）		
16:00～ 18:00 (120分)	【講義】 研究開発機関の評価、研究者等の業績評価  講師：林 先生（P）	休憩（15分）	
移動(5分)		14:45～ 15:15 (30分)	【講評・修了証授与】
18:20～ 19:20 (60分)		15:30	解散
情報交換会（講師出席）			

平成30年度研究開発評価人材育成研修（初級）【日程表】（案②）

時間	1日目（11月27日）	時間	2日目（11月28日）
会場	文部科学省	会場	文部科学省
13:00 ～ 13:05 (5分)	開会の挨拶 文部科学省科学技術・学術戦略官 工藤 雄之	10:00～ 10:40 (40分)	【講義⑤】 「評価の種類とロジックモデル」（プログラム評価におけるセオリー評価、プロセス評価、アウトカム評価の整理。特にセオリー評価におけるロジックモデルの説明） 講師：栗本先生（P）
13:05 ～ 13:35 (30分)	【講義①】 「最近の政策動向」 文部科学省科学技術・学術戦略官 工藤雄之 or 科学技術・学術政策局企画評価課課長補佐 國分 玲子（P）	10:40～ 13:50 (190分) ※途中、休憩(60分)を含む	【ワークショップ②】 （案：鳥取大学のケース等を題材に、学内研究資金制度のロジックモデルを構築する） モデレーター：栗本 先生（P） ファシリテーター：各委員（P）
13:35～ 14:35 (60分)	【講義②】 「評価の制度枠組み」（研究開発評価の意義、政策体系と評価制度の全体像） 講師：伊地知先生（P）		
休憩（5分）			
14:40 ～ 15:40 (60分)	【講義③】 「評価システムの構成」（プロジェクト評価を例に、大綱的指針を踏まえ、評価目的・対象・評価基準・評価指標・実施時期の概念を整理。特に研究開発のアウトプット、アウトカム、インパクト概念の整理） 講師：安藤先生（P）		
休憩（10分）		休憩（10分）	
15:50～ 16:10 (20分)	【アイスブレイク】 講師：小湊先生・鳶田先生（P）	14:00～ 15:40 (100分)	【発表・講評】（P）
16:10 ～ 17:10 (60分)	【ワークショップ①】 （案：鳥取大学のケース等を題材に、アウトプット、アウトカム、インパクト概念を理解する） モデレーター：小湊先生・鳶田先生（P）	15:40～ 15:50 (10分)	【全体講評】
休憩（5分）		15:50～ 16:00 (10分)	【修了証授与】
17:15 ～ 18:15 (60分)	【講義④】 「機関評価」（ビブリオメトリクス等の技法と留意点を含む） 講師：林先生（P）		
移動（5分）		16:00	解散
18:20 ～ 19:20 (60分)	情報交換会（講師出席）		

平成30年度研究開発評価人材育成研修（初級）【日程表】（案③）

時間	1日目（11月27日）	時間	2日目（11月28日）
会場	文部科学省	会場	文部科学省
13:00 ～ 13:05 (5分)	開会の挨拶 文部科学省科学技術・学術戦略官 工藤 雄之	10:00 ～ 10:45 (45分)	『プログラム評価』 講義：栗本先生（P） 「プログラム評価とロジックモデル」
13:05 ～ 14:35 (90分)	講義 講師：伊地知先生（P）	10:45 ～ 12:15 (90分)	【ワークショップ②-1】 ・ケース（匿名化した事例）のインパクトセオリーの側を中心に、途中で解説を入れながら作業
休憩（5分）		休憩（60分）	
14:40 ～ 15:25 (45分)	『プロジェクト評価』 講義：林先生（P） 「研究開発論」 「研究開発のタイプ別にみた評価」	13:15 ～ 14:10 (30分)	【ワークショップ②-2】 ・アクティビティと紐付け ・アウトカム指標を設定する
15:25 ～ 16:25 (60分)	【ワークショップ①】 ・ケース（匿名化した事例）の優れた点や改善点を話し合う	14:10 ～ 14:30 (20分)	【全体共有】
16:25 ～ 16:45 (20分)	【全体共有】	14:10 ～ 15:00 (50分)	【講評・意見交換】
16:45 ～ 17:10 (25分)	【講評・意見】	15:00 ～ 15:30 (30分)	【修了証授与】
移動（5分）		15:30	解散
17:15 ～ 18:30 (80分)	情報交換会（講師出席）		

## 研修内容等の検討

### 1. 研修全体

- ・受講者人数については、2日目に参加可能な講師数（7名）を勘案し、昨年度より2班減らし6班体制でよいか。
- ・班分けは受講者の所属等の属性を考慮する方向とし、1班当たりの人数が同じでなくてもよいか。

### 2. 研修内容と日程

- 案①
- ・昨年度と同様の内容とタイムテーブル。
  - ・ロジックモデルのテーマをどうするか。
- 案②
- ・昨年度までの研修を基にした講義内容で、1コマ当たりの講義時間を短縮しコマ数を増やす。また、2日目のワークショップは、発表や講評の時間に余裕を持たせ終了時間を30分遅くするタイムテーブル。
  - ・受講者には指定したテキストの範囲やケースを予習してもらうことでよいか。
  - ・テキストを用いて講義をするのであれば、どのような内容、分担とするか。
  - ・初日に2日目と同じテーマ又はケースのワークショップを行い、2日目のワークショップの下準備としたらどうか。例えば、ケースを扱うのであれば1日目にケースの優れた点や改善点を話し合う、あるいはケースを自分の機関に適用した場合のすり合わせ作業等を班ごとに行い、ケースについての認識を共有した上で、2日目のワークショップにつなげる。
- 案③
- ・（公財）未来工学研究所の提案をベースにした内容とタイムテーブル。
  - ・受講者には指定したテキストの範囲やケースを予習してもらうことでよいか。
  - ・テキストを用いて講義をするのであれば、どのような内容、分担とするか。
  - ・1日目にプロジェクト評価、2日目にプログラム評価をテーマにワークショップを行うのであれば、それぞれ具体的にどのように実施するか。

## 今後のスケジュール（案）

- 10月1日（月） 各機関に事務連絡を発出
- 10月31日（水） 参加申込み締切り
- 11月9日（金） 第48回研究開発評推進検討会  
(研究開発評価人材育成研修（初級）及び受講者の最終確認)
- 11月12日（月） 受講者決定通知
- 11月21日（水） 講義用資料等提出締切り
- 11月27（火）、11月28日（水） 平成30年度研究開発評価人材育成研修（初級）